



PDA 即興型英語ディベート 熊本交流会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2024年11月16日（土）09:30-12:00（午前の部）・13:30-16:00（午後の部）

会場：オンライン（Zoom）

参加者：午前 生徒 35 名、午後 生徒 36 名（熊本西高校、熊本北高校、真和高校、尚綱高校、熊本商業高校、八代高校、熊本高校）

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、大阪大学

熊本県内の7つの高校が集まり、即興型英語ディベートに挑む「PDA 即興型英語ディベート 熊本交流大会」がついに始まりました。午前中は初心者向けの部、午後は経験者向けの部で、それぞれ2回のディベートセッションが実施されます。

はじめに、熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高等学校教育指導班 指導主事 中村先生より「緊張している人もいるかもしれませんが、交流も楽しみながら頑張ってください。」とご挨拶いただきました。その後、PDA スタッフよりルール説明が行われ、早速1ラウンド目がスタートしました。



中村指導主事によるご挨拶



POI の練習では、片手を頭に乘せてもう片方の手を伸ばすポーズに取り組みました

1ラウンド目の論題は、“**High school students should have part-time jobs.（高校生はアルバイトをすべきである。）**”でした。「社会について知ることができる」「コミュニケーションスキルが身に付く」と主張する肯定側に対し、否定側が「高校生にとって勉強や部活が最も重要だ」と切り返すなど、「高校生の本分とは一体何か」について議論を交わしました。ディベート後は対戦相手と学校生活について話し、交流を深めました。



POI にも取り組み、議論したあとは……



握手を交わして交流（熊本西 VS 熊本北）



ディベート後はお互いの健闘をたたえて握手を交わします（熊本北 VS 真和）

続く 2 ラウンド目の論題は “**Term-exam should be abolished.** (定期テストは廃止すべきである。)” でした。「定期テストは詰め込み型で、定着につながらない。むしろ単元テストを増やすべきだ。」と説明する肯定側と、「定期テストだからこそ、しっかりと復習しようというモチベーションになる。」と主張する否定側が、白熱したディベートを展開しました。ディベート後は、相手チームと画面越しに握手を交わしたあと、「何年生ですか?」「部活動は何をしていますか?」「中学校はどこですか?」などの話題をきっかけに、他校の生徒との交流を楽しみました。



POI にも果敢に取り組みます（熊本北 VS 熊本西）





ディベート後の握手・ジャッジコメントを待つ間、相手チームと交流を深めます

ディベート実践を終えると、2 ラウンド目でベストディベーターに選ばれた生徒たちが、「1 ラウンド目でジャッジからコメントされたことを生かそうと2 ラウンド目取り組んだ。もっとやりたいと思った。」と感想を述べ、午前の部が終了しました。



ディベートの感想を述べます

昼食休憩ののち、午後の経験者の部が始まりました。はじめに PDA スタッフよりルールのおさらいと、反論の方法に関するレクチャーが行われました。レクチャーでは、PDA スタッフからの質問に対して、画面越しに手を挙げ、積極的に自分の考えを述べる生徒の姿が見られました。



午後の経験者の部でも POI の練習に取り組みました

いよいよディベート実践のスタートです。午後の部の最初の論題は“**Japan should make voting compulsory.**（日本は投票を義務化するべきである。）”でした。肯定側は「政治への関心を向上させるべきだ。」「若者が投票に行くことで、シルバー民主主義が解消される。」と述べ、否定側は「深く考えずに投票する人が増える。」「投票しない自由を認めるべきだ。」と説明しました。ディベート後は午前部の部と同様に、他校の生徒との交流を楽しみました。



アイコンタクトをしながらスピーチ



ディベート後は握手（熊本 VS 真和）



ディベート後の握手（熊本 VS 尚綱）

休憩をはさみ、本日最後のディベートです。論題は、“**High school students should go abroad for their school trips.**（高校生は修学旅行を海外にすべきだ。）”でした。自分たちに身近なトピックに、見聞きしたことがあるエピソードを具体例として織り交ぜながらスピーチをしたり、社会背景について言及しながら説明したりするチームもありました。



ディベート後は画面越しに握手を交わしました



交流のあとは、ジャッジより勝敗の説明と個人フィードバックを受けました

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・今回特に感じたのは、順序よく説明することの難しさです。即興型ディベートでは、いかにステップを立てて説明できるかが大切になるので、これからはこの部分を特に頑張りたいです。（熊本商業）
- ・初めてでとても難しかったけど、授業でやった example などを使って反撃できたのが良かった。（熊本北）
- ・普段、友達や周りの人などとディベートをすることはなく、まして英語なので非常に難しかったです。自分の意見だけでなく相手の意見も考えて話し合っていくので、即興力やプレゼン力が鍛えられたと思うので、非常に貴重な体験でした。（熊本西）
- ・最初は他校の人に反論されてちょっと怖くなって思っていたのですが休憩時間等で他校の人とお話して印象は変わりましたしこう考えると他校の人は敵じゃなくて自分の英語力を高めてくれる仲間、と見方が変わりました。（熊本西）
- ・英語ディベートを即興型で他の学校さんと交流させていただくのが初めてだったので、とても緊張しましたが、とても楽しかったです。即興で考えるのがとても難しかったり、相手の論を聞いている間に反論を考えなければいけなくて、とても大変でした。ですが、とっても楽しかったです!!!（尚綱）
- ・初めてのディベートでとても緊張したけど、みんなと協力しながらどう反論するかなど普段以上に頭をフル回転させて話し合いを行うことが出来てとても良い経験になりました。（熊本北）
- ・試合をするまでは緊張していたり不安だったりしましたが、試合が始まるととても楽しかったです。（真和）
- ・ジャッジの方の評価を個別に聞くことができ今後の成長に繋げていけると感じました。（八代）
- ・どんな風に言えたのか、アドバイスをもらえたので非常に参考になった。（真和）
- ・英語力や論理力をのばす良い機会になりました。（熊本）
- ・サマリーという立場は、みんなの意見そして反論をすべて頭で整理していくのが難しいと思った。相手の主張すべてに対応していくために、ある程度予想しておくことが大事であり、全体を把握する能力の大切さを痛感した。（熊本）
- ・いろんな学校の制服やディベート状況が知れて良い機会となりました。ジャッジの人の批評を次のディベートに活かしていこうと思います。（八代）
- ・自分の英語力のなさを痛感しました。自分が言いたいことを明確にして発言することの難しさ、相手の主張を聞き取る重要さ、すばやく英語にしてまとめる力、たくさんの課題が自分の中で見つかりまだまだ成長できる課題としてこれからも英語の学習をがんばっていきたいです。（熊本西）